



今年の夏は「命に関わる危険な暑さ」と連日天気予報で伝える程の猛暑でした。朝から35℃をあっという間に超え、園庭で遊べなかったり幼児はプール活動を行えない日もありました。朝、職員がプールの準備を始めると水温もぐんぐん上がり、どんなに水を足しても29℃以上になってしまう程。体調管理や安全面に今まで以上に配慮が必要なプール活動となりました。猛暑の中、何度もやってきた台風。西日本豪雨など大雨による災害など心を痛める夏でもありました。わかばの夏の風物詩と言えば、ダイナミックな水遊び、流しそうめん、アイスクリームやさんに梅ジュースやさん。



そして今年もまん丸のスイカを背負ってやって来ましたカップさん！大きな事故や怪我もなく、皆元気に夏を乗り越えられました。



舞岡の田んぼには、トンボが飛び朝夕は、すっかり涼しくなりました。心地良い季節とともにうんどう会がやってきます。幼児さんの踊りが始まると、何処からか乳児さんがやってきては、じーと見入っていたり、まねっこしたり。憧れの眼差しを向けてくれることで幼児さんは、より一層練習に取り組む姿が見られます。当日は一人ひとりが輝ける日になりますように。わかばの秋は、盛沢山の季節です。相変わらず親御さんの出番の多い保育園です。今年も10月27日に父母、職員の繋がり合いを大切にをモットーにわかばまつりを行います。懐かしいわかばの空気を吸いに、是非足を運んで頂けたらと思います。

わかば保育園園長 伊佐治由紀



例えようもないあの暑さから一変して、凌ぎやすい季節となりました。あらぐさ会員の皆様もお元気でご活躍のことと思います。芸術の秋にちなんで先日横浜美術館で開催されている「モネ展」に出かけました。「睡蓮」を生涯描き続けたモネの想いはじめ、光や空気、風などを様々な形で描くその表現に魅せられてきました。「美しいもの」との出会いに感性が揺さぶられています。

9月19日には「おじいちゃんおばあちゃんとあそぼう会」が園で開催されました。保育園の様子や保育園で過ごすお孫さんの姿を見て頂き、ご理解を頂く機会になればと言う気持ちで今日まで続けて来ました。子育ての主演はもちろんお父さんお母さん。でもそれだけでは成り立ちません。周りの理解と沢山のサポーターが必要です。その最も強力なサポーターがおじいちゃんやおばあちゃん。今回もこの会を通して保育園の様子が分かり安心してお孫さんを預けることが出来る、曾孫さんを保育園に委ねて心から良かったと実感している等感想を頂きました。「みんなで子どもを育てる」ことが私たちの願いです。



今私たちが保育の中で面白いと感じるのが「あそびの逸脱」です。「逸脱」には「本筋や決められた枠や範囲から外れること」「ルールから外れた望ましくないこと」と言う意味があります。小さい子どもたちは好奇心や探究心に溢れ、日々大人が驚くような行為の連続で、まさに「逸脱」のくり返しです。1歳児クラスのR君。ホールの絵本コーナーで山のように積まれた絵本の上に座って一人絵本を楽しんでいます。大人は背表紙を見て本を選ぶことが出来ますが、子どもたちは絵本の表紙を見て選ぶのです。次々に絵本を棚から引っ張り出し、ようやく自分が見たかった絵本に巡り合い満足そうなR君、「常識」とらわれない子どもたちの姿に学ぶ毎日です。



新杉田のびのび保育園園長 山中あけみ



移管前の公立保育園だった時からの行事として、「藍染」があります。講師は富士宮市に工房を持っていて、個展などでもご活躍のはやし千草先生です。保護者会のご協力で、今年も9月11日に年長「らいおん組」20名が藍染の体験をしました。

昨年の藍染の時にいただいた種を春に蒔き、夏中育てて、それを刈り取って先生に渡すと、藍染の液を作ってくださいます。それがどんなに大変な工程なのかなどは、子どもたちが知る由もなく、タライに入った藍の液の独特なおいにおい、くさーい！と鼻をつまんでいました。



今年も染めるのはTシャツとハンカチです。Tシャツは運動会の時に揃いで着る大切な衣装に。ハンカチと染めたレースで職員が作るコサージュは、卒園の時のサプライズプレゼントになります。(秘密です。) こいのぼりを作った時に経験した、輪ゴムやビー玉を使った絞り染めや、割りばしを使った板染め、などなど、一人一人、工夫を凝らして準備をしました。



先生から、藍が空気に触れると色が変わること、お酢を入れると水で洗っても色が落ちないことなどを教えてもらいながら、素敵な色に染め上げることができました。しっかりと話を聞いて、着々と作業をこなす姿には成長を感じます。藍は藍より出でて藍より青し。あと半年で、未来へと巣立っていく子どもたちです。

↓藍の葉



笹下保育園園長 五十嵐 樹